

## 知っておくべき漢方医療の基礎知識 第1回 漢方総論と風邪の漢方治療

日時：平成24年1月15日（日）10：00～15：00

講師：野上 達也 富山大学附属病院 和漢診療科 病棟医長 場所：きゅりあん

2012年最初のMHS医学臨床セミナーは1月15日に富山大学大学院 医学薬学研究部 和漢診療学、富山大学附属病院 和漢診療科 病棟医長の野上達也先生を講師に迎え、知っておくべき漢方医療の基礎知識シリーズ第1弾「漢方総論と風邪の漢方治療」をテーマに開催いたしました。

### プライマリケアをより充実させるため、多くの先生方に漢方医学を活用していただく！

上記の見出しは野上先生自身が今回のセミナーの目的として挙げた言葉です。昨年末に日本漢方生薬製剤協会が実施したアンケートでは漢方を処方している医師は89%に上り処方経験が全くない医師はわずか3%、漢方を処方した医師の理由として最も多かったのが「西洋薬で効果がなかった症例で効果が認められた」と答えています。

今でこそ医学部の講義に漢方の講座が開設されてきましたが、大半の医師は漢方の基本を十分に学ぶことなくメーカーさんのセミナーや他の医師からの情報を基に処方されておられます。

そこで、漢方の専門医である野上先生に漢方の基礎と疾患ごとの処方について解説していただこうと3回シリーズでのセミナーを企画しました。「漢方治療をしたらいいのに…という患者さんを減らしていきたい」との思いが伝わるセミナーでした。

第1回目のセミナーの目的は、「明日からの外来で漢方治療を行う」と題し、①「漢方医学の基本」を理解する。②「漢方診療の実際」を身につける。③「今後の学び方」を知る（使える漢方処方を増やしていく方法の実際）」でした。

最初は講義形式で「証」の意味について、「陰陽」「虚実」など漢方特有の理論について詳しい解説をしていただきました。同じ病気でも陽証と陰証では

健康から離れた状態が異なり、それぞれにあったベクトルの漢方を処方しなければいけないということです。〇〇の疾患には△△や××の漢方が良いと言っても陰陽や虚実でみると、ますます健康から離れてしまうことになり危険です。漢方薬にも副作用はあります。副作用についても具体的に説明していただきました。特にメーカーさんのセミナーなどでは絶対に言われない間接性肺炎を引き起こす可能性のある漢方薬などを教えていただきました。

講義に続いて陰陽虚実を鑑別するための問診のポイント、実技では①参加者の先生が3人ずつのグループになっての脈診、②模擬患者を使っの腹診、③舌診の方法について学んでいただきました。



腹診の診方を説明する野上先生

漢方セミナーシリーズ第2弾は2月12日（日）「消化器系症状と痛みへの漢方治療」、第3弾は3月25日（日）「めまいなど神経系症状と女性のための漢方」がテーマで連続受講割引もあります。

また次回セミナーは2月5日13時より、東京都中央区のインプリメント セミナールームで日本大学医学部附属板橋病院 耳鼻科外来医長の野村泰之先生により「患者満足度を高める花粉症診療のポイント」をテーマに開催いたします。